

## キルギス政治・経済レポート

# キルギス NOW

【第 3 号 : 2010 年 3~4 月期】

\* 本レポートはROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 国内の動き

2010 年 3 月 23 - 24 日、前大統領クルマンベク・バキエフが第 1 回キルギス共和国和合クルルタイ (大会) を首都ビシケクで開催し、共和国内外から代議員 750 名が参加した (反政府派はこの大会に反対し、不参加)。これらの代議員には国の活動家、科学、文化の功労活動家、著名な政治家、経済専門家が含まれていた。このクルルタイでは新たな統治原則 — 「審議民主主義」を発展させるという決定が採択された。クルルタイの出席者は大統領の構想を全会一致で支持した。

しかし、その 2 週間後、共和国内で騒動が始まり、政権交代が起こった。

4 月 6 日、「組織化人民運動」(OND) のリーダーの一人、ボロトベク・シェルニヤゾフがタラスで集会を開いた。そのきっかけとなったが、彼自身が取締機関に拘束されたという話であったのだが、後から判明したところでは、シェルニヤゾフは誰にも逮捕されてはいなかった。だが酒を飲んで氣勢を上げ、石や棒で武装した群衆は既にそれまでに州行政府庁舎を占拠し、知事を人質にすることに成功していた。翌 4 月 7 日、この群衆は警察の抵抗を蹴散らし、数人の警官を殴打して、州内務局の建物を占拠した。こうして反政府派の若い支持者たちの手に銃器が渡った。若者達は、群衆をなだめるために到着した共和国内相のモルドムス・コンガンチエフ将軍を殴打し、将軍の身柄は身代金 4 万ドルで夫人に引き渡された。

一方、4 月 7 日、反政府抗議行動は共和国全土を巻き込んだ。統率者が誰もいない、酒を帯びた若者達の群衆が棍棒、石、火器で武装して首都ビシケクの中心部に出現した。検事総局に前日拘束されていた反政府派のリーダーたちがこの日、釈放された。

しかし、これらのリーダーも支持者たちを落ち着かせることが出来ず、夕刻、群衆は無防備の「ホワイトハウス」(政府庁舎) に乱入し、その打ち壊しに取りかかった。

4 月クーデターの結果、反政府派がキルギスの政権に就き、13 名の反政府派リーダーが

元外相ローザ・オトゥンバエワを首班とする臨時政府を組織した。臨時政府のメンバーは最初の仕事として、臨時政府の任期は半年だけであり、10月に大統領選挙と国会議員選挙の両方を実施すると声明し、早速憲法改正の作業を開始した。臨時政府の作業グループが検討用に提出した新憲法草案によると、キルギスに議院内閣制を導入することが提案されている。臨時政府が発表した6月の国民投票でこの憲法草案が国民から支持されれば、大統領の職務は大幅に削減されることになり、大統領は事実上、調停役に変わる。政府を組織する権利は秋の国会議員選挙で多数を占めた政党に与えられる。

反政府派の権力掌握に伴い、辞職と政治的迫害が始まった。国会と憲法裁判所が解散された。前大統領チームの官僚20名が国家保安局の拘置所に収容され、さらに同数の関係者が氏名手配されている。彼らは政治的迫害を逃れて、出国を余儀なくされた。その中には前国会議長、前首相、前大統領の末息子マクシム・バキエフが含まれている。マクシム・バキエフは4月政変まで、昨年11月に設置された発展・投資・イノベーション中央庁の長官を務めていた。クルマンベク・バキエフ前大統領本人はまず共和国南部の出身地の村へ逃れ、次いでベラルーシへの亡命を余儀なくされた。彼は辞表を出し、その中で共和国内に生じたことの全責任は臨時政府にあると述べた。その後、ミンスクに到着してからの特別記者会見では、自分の辞職を認めないと声明した。

一方、検事総局は前大統領を「2名以上の殺人」罪で起訴した。これは4月事件中の取締機関側との衝突を通じてデモ参加者87名、警官61名が死亡したことによるものである。更に500名の取締機関職員が銃弾による傷を負った。このため、臨時政府はベラルーシ指導部に前大統領の身柄引き渡しを求めた。しかしアレクサンドル・ルカシェンコ・ベラルーシ大統領はこの要請を拒否した。

## **対外関係**

5月8日、対独戦勝65周年祝賀行事の前日、モスクワ郊外で集団安全保障条約機構加盟諸国とCISの非公式首脳会議がそれぞれ開催された（キルギスは首脳会議に不参加）。会議の結果をうけて、ドミトリー・メドヴェージェフ・ロシア大統領をはじめとするこれら両機構加盟諸国の首脳たちは、キルギスの政権交代を非憲法的であるとした。同時にまた首脳たちは、共和国情勢を法制的コースに戻すようにキルギス新政権に求めた。

## 経済・多国間関係

反政府派の権力掌握後、共和国経済は克服できない困難に直面した。カザフスタンとウズベキスタンを含む隣接諸国は情勢不安定を理由にキルギスとの国境を閉鎖した。この結果、国内ビジネスマンは莫大な損害を被った。キルギス経済界の数字によると、国境閉鎖による最近1ヵ月間の損失は10億ソム（約5,000万米ドル）を上回った。

## 貿易・経済関係の発展

一方、世界銀行、IMFをはじめとするすべての国際金融機関は、キルギスへの人道援助を約束している。しかしながら、キルギスに合憲的な権力機構が誕生するまでは、どの国も、IMFと世界銀行も、低利の優遇融資または無償援助を実施することができない。他方、ロシアは5,000万ドルの支援を行なった。そのうち3,000万ドルは優遇融資である。

## 農業分野の輸出入

今年の播種作業期は気象条件のためにさらに3週間延期された。しかしながら農民たちは農機用の燃料・潤滑油がないために、播種作業に着手できないでいる。既にロシアとカザフスタンは必要な量の燃料を供給する用意があることを発表している。

## エネルギーセクター

臨時政府のメンバーは、昨年11月に前内閣が採択した公共料金政策を見直すと声明し、熱と電気の料金は旧料金に戻すことが決定した。臨時政府によれば、カンバル・アタ第2水力発電所の建設工事も継続されており、第1号発電機は今年8月末に運転開始の予定。

## その他のセクター

臨時政府のメンバーはまた、前大統領クルマンベク・バキエフあるいはその側近が所有していたとされる大企業を国有化することを発表した。失脚した前大統領ファミリーのいわゆる関連企業の中には携帯電話会社が2つ入っていた。MegaCom社とBeeline社である。臨時政府は布告により、これら両社の株式の49%はいまや国家に帰属することを決定した。